

深江家系図

本名 安富 源姓 家紋 竹笹

清和天皇

貞純親王

四品兵部 しほん 弓の達人卿
延喜一六年亥五月七日薨去

経基

從五位下 六孫王 源姓賜る
天徳二年一月二四日卒去 六四歳 母右大臣源能有女

満仲

從五位上 右馬權頭 伊予守 鎮守府將軍満慶入道
長徳三年酉八月二七日卒去 八六歳

頼光

正四位下 左馬權頭撰津守 左兵衛尉 字文珠丸
鎮守府將軍
治安元年酉七月二四日卒去 六八歳

頼国

從四位下 左兵衛尉 右馬頭 三河守

賴
衡

又六郎 民部丞

賴
重

六郎左衛門尉 宗賴之六男

宗
賴

從五位下 左兵衛尉 賴行之二男

賴
行

從五位下 源藏人大夫

仲
政

從五位下 下野守

賴
綱

從四位下 左衛門尉 三河守

初代
頼清

安富民部^{みぶ}三郎、頼衡之三男、行位入道、初号心空
時に鎌倉に在す、正応五年一二月六日執權北条相模守貞時の下文^{くだしまみ}を賜り鎮西に下向、
肥前国高来東郷深江浦^{うらち}（深江入道蓮忍の跡）の地頭職を給う、永仁五年越中次郎左衛門長員^{ながかみ}
と所領の相論をなし勝訴の旨下知状を賜る

二代
頼泰

安富三郎次郎、左近将監^{さきこんのしょうげん}
本領肥前国高来郡深江村並びに肥後国玉名西郷大野別府の内岩崎村（瑠璃童女の跡）。
筑後国瀬高下庄鷹尾別府の内小犬丸名（多賀谷八郎入道蓮光の跡）。弘安四年七月蒙古
合戦勲功の賞、肥前国神崎庄の内竹村郷買得の地。同国彼杵郡伊佐早の内船越村等の地
頭職を給うの関東下文十通を帶す

（深江家文書によると正応六年、一二九三年五月九日鎮西探題北条兼時から右筆^{ゆうひつ}を命じ
られ、永仁七年三月に探題北条実政からも右筆を命じられている。蒙古合戦の勲功の追
加である。勿論鎮西探題の右筆である。）

三代
泰長

安富次郎、兵部丞、舜献入道^{ひょうぶのじょう しゆんけん}
肥前国深江村、筑後国鷹尾別府の地頭職を賜る